

ニッケイ俳壇

(838)

星野 瞳 選

母作るボリンニヤデシユウア夏休み
雨降れば人恋しける山家猫
マンゴ樹をマリタカの群れ襲いたる
ブラジルの秋水昌村の霧宿し
インジオの少年を呼びラン捕りに(ランは蝦
(襲)

北瀬道 旭川市 両瀬 辰江
花の芽を子供待つこと眺めおのり
早春の日差し窓に鉢移す
もの芽を散歩の道で楽しみめり
朝寝して心ゆくまで手足伸す
メモ書を書いてスパー山笑う

○今週も忘れずに投稿ありがとう。プラ
シユを忘れて居られない証拠です。大統領
罷免のデモが起つてサンパウロは、一日と
して静かな日はない様な思いで居ります。
あなたが居られたサンパウロではなくなり
ますが、それに引きかえ日本は外国のお客
さんブームになって居るようですが、

ホソボランガ 青木 駿浪
新源や光りと影が交錯す
狭庭にも秋の気配の彩りせて
山家今墨絵の如く銀河濃し
気味良き病妻の顔虫浄土

プ・ブルデンテ 野村いさを
枝の目の枝持つ人の列につく
農産物も細々秋草
風鈴のかさけき音色外厨
古寺巡るバスで飛鳥の柿喰ぶる

ニッケイ歌壇

(488)

上妻博彦 選

モンテ・カルメロ 興梧 太平
知人より送つて来たる自分史にそんな歳かと気づ
いたあの日
八十まで生かされて来て六人の孫もすこやか感謝
の気持
久しぶり畳・布団に横たわりしみみ思ふ昔の事
を
仏前に理解出来ずも唱うれば般若心経はささえと
なりぬ
皇后の御歌(みうた)を拝し言の葉の奥床しさに
魅了されたり

「評」この五首の作品もまた唱うるに、安ら
ぎを感じる。高翔な浪漫の青年は日向の高千
穂から、この国の高原に着地して五十数年の
今、心のささえとなる物を求めて、孫等の生
育に感謝している。帰化ブラジル人。
サンパウロ 武地 志津

朝散歩どこでついた草草らみ
クアレズマや山は車日霧や雨
時季外れの風邪に咳き込むバスの中
逝きし人を送る命日秋時雨
秋雨が降つて東屋にひと休み
サンパウロ 湯田南山子

通せんぼして山秋の乱れるかな
朝顔の種を採つて頼まれる
山秋を蹴散らして行く放れ馬
茸狩り一本見付けて万歳す
サンパウロ 住谷ひさお

夜顔や静かな雨に二輪で行く
庭芝に月草の花二輪咲く
玄圃梨色つきて風さわやかな
友旅へ七十年ぶり桜見に
サンパウロ 武藤 栄

村あけて一日楽しい運動会
夫婦して楽しむ釣場開ぬ
日本酒で杯上げ祝ひ親日家
最高とラゴスタ料理海の幸
ブラジリア
菜の葉汁飲んで近頃医者いらず
ピッキーめし料理じまんの娘と住みて
日本語の話は出来ずピッキーめし
クアルリョス 永田美知子

リベイロンの句友の赤心狸々花
リベイロンのもてなし運動会
嫁取りに引かれて走る運動会
弓場野球見守りて来ハインイラ
サンパウロ 寺田 雪恵

アンテナで恋を探すやかたつむり
尺取虫三つ葉の色のまま歩む
子が病んで心から笑えぬ日々
岩清水増し汲み易き秋の水
エンガス 島村千世子

日本のすだれは古るひ移民老う
すだれから日本の風が少し吹き
幸せや里の名曲聞きて老い
サンパウロ 三宅 珠美

烈風にテラスのタイル六・七枚一瞬にして剥がれ
散らばる
とんとんと不意に物打つ音のしてカーテン引けば
職人其処に
外壁を綱で下り来し彼なるか黙々作業に励み居る
いつしかにタイルを叩く音の止みテラスに彼の姿
も見えず
手際よくタイル張り替え散らかりしテラスもすつ
きり片付けてあり
「評」一編の時と短編とも言える広がり
を感じる。一連の掛りがなく、一首が独立
した作品でありながら全体を構成している。

「評」亡びののちの結実。流転、流動、生
成、化育する実相を草花の命に見つめる作
者。この広き国の網の目には繊細なものな
掛りそうもない。
サンジョセドス・ヒンニヤイス 梶田 きよ
過ぎ去りしやな想い出いつまでも忘れず語る文
化人達
文春を読みいて又も目につきぬ不快な言葉慰安婦
問題
文春の随筆読みいて目につきし日本国民の幼児性
とは
どちらでもよいことを詠む歌もあるそれでもよい

「評」なんとも旨い作品。特に三、四、五、
「下敷きなりしタンポポの花」『る色の過

炭だら叩きほらまき土佐と知れ
サンパウロ 武田 知子
生き残ることも多難と秋思かな
残る蚊やデング予防の葉かな
白妙にねり網の暮今朝の秋
サンパウロ 児玉 和代

黒を白と云えず半生四月馬鹿
新源やとくくくする五体の血
鍵束の小鈴かかると鳴る夜寒む
夕冷えの灯影湯呑みの飲み残り
風もなき空のどこかに秋立ちぬ
サンパウロ 西谷 律子

クワレズマ大阪橋にすたれ咲く
露の世の出会ひ別れを重ね生く
ビルの間をわけて登りぬ十三夜
たおやかにコスモス風に逆らわす
残された人の追憶曇雲
サンパウロ 西山ひろ子

薄紅葉して南天の葉先かな
母の日や母在りし日の母を恋ふ
爽やかな風に心を解き放す
新聞の夜露をまとふ朝かな
アンゼリカ句える部屋に疲れけり
五色の薔薇心豊かな句座の席
ペランダに芭蕉の愛でつすみれ草
シクラメン恋には遠き命となり
大木にすがす春蘭のひやかに
サンパウロ 竹田 照子

爽やかに春の吾も宴に酔ふ
タイバスの山眺めつつ食ふ御馳走
すがすがし空に一とはけ秋の雲
海の蟹皆孫好みて食ふ今宵
サンパウロ 原 はる江

中庭の隅よりかなかな鳴く夕べ
米寿まで生きて待せ秋の蘭
弟妹等に祝され感激秋の宴
よろこびを祝して贈らるシクラメン
サンパウロ 三宅 珠美

熟のさくら『秋深沈』一首全体を整える
に充分な気がする。
サンパウロ 相部 聖花

故郷(こきょう)よりのつくしの写真見つれば
まぶたに広がるふるさと野辺
五月花水不足にて赤らみし茎の先にははや蕾持つ
秋なれやもくせいの花匂い立ちひそやかにして秋
をことほぐ
イツペーの花の寿命の短かくて散り敷く花を惜し
みつ見る
よきニユース網には乗らず日にちに汚職・暴力こ
の広き国に
「評」亡びののちの結実。流転、流動、生
成、化育する実相を草花の命に見つめる作
者。この広き国の網の目には繊細なものな
掛りそうもない。
サンジョセドス・ヒンニヤイス 梶田 きよ

「評」なんとも旨い作品。特に三、四、五、
「下敷きなりしタンポポの花」『る色の過

口にすすすべてが美味し食の秋
道の辺の野菊一と枝手折り来し
濃淡の紫ゆかし秋桜
サンパウロ 玉田千代美

散り急ぐ物の哀れや秋時雨
山荘の木々の香おれや秋の宴
狙の魚にひとかけ秋の水
せせらぎの水底にすむ落葉かな
サンパウロ 山田かおる

秋晴れにめでたき友のダイヤ婚
小鳥鳴く庄で句友の米寿の宴
山荘で八重のコスモスの種拾ふ
孫誕生秋空遠きオーストラリアで
サンパウロ 平間 浩二

秋晴に歌って寿々米寿かな
マラクジャのアーチ潜りて米寿祝く
米寿祝く一日和みの秋の庄
東の間の真紅に燃ゆる秋夕焼
アチバイア 東 抱水

釣宿の女房はインジオ土人の日
土人の日光り居るインジオの手芸品
けらつつき原林残る耕地中
きつつき返返しに離る呼ぶ
アチバイア 吉田 繁

竹植えて早五十年竹の春
新移民土人のこおるぎ泣いて聞く
釣った夢逃がした夢や四月馬鹿
鳥が播きしゴヤバ木たわわ実をつけて
アチバイア 宮原 育子

遠くから匂ふゴヤバ売場かな
鍋赤く染めて完成ゴヤババダ
放牧の牛の大空鳥渡る
ちちる鳴くココロニア話聞く夜かな
アチバイア 沢近 愛子

椰子の葉の木れ日やさし出湯の宿
移民妻温泉の街に來て至福なる
竹の春風さらさらと吹き抜けて
竹の春竹林育ち絵となりぬ
アチバイア 菊池美佐枝

温泉ですべてを忘れ秋つらら
食の秋玄米好きな孫等來て
アチバイア 松田 承志

涙するアンネの日記夜長更け
しその実の香りしみり想ふ
マイリボラン
孫のうそ気付かぬふりの四月馬鹿
秋雨やまた来ぬ人待ちわびて
雨激し夫を気づかふ竹の春
鶴を折る手先にやさし秋の風
サンパウロ 池田 洋子

娘が作るゴヤババダでお駄菓子かな
仏壇にゴヤバの駄菓子お供えす
恋人にかつがれとんまの四月馬鹿
濁流に家を流して雨季上る
サンパウロ 中馬 淳一

あり余る黒髪背ナに洗ひ干す
秋雨のボソボソと降る洗ひ干す
山伐つて大豆植えるやと云う男
秋灯下日本の便り廻し読む
サンパウロ 佐古田町子

かすみ草ミミザと活け客を待つ
黄金藤目当でおいでと友に告げ
転々と子等の家渡り老うらら
感銘も哀傷も捨て老の秋
イタチバ 森石 茂行

四月馬鹿嘘とは知らず賑わ行く
独裁者何処にありて減り行く
日盛り雨を潤ほすソルベツテ
ジャックカー切り強き芳香室に満つ
マナウス 東 比呂

島渡し左右に月を置きかえし
月明り頼りに大河渡る舟
渡り鳥見送る日暮れ浮き波止場
渡り鳥大河一と蹴りして翔てり
離壇のなけれど孫に人形買う
マナウス 宿利 嵐舟

満点の星を従え月天心
月光を浴びて寄せ来る金の波
歩をゆるめつつ月光の中にあり
思ひあふ丘に登れば星の月
風絶えて鏡の池に夜半の月
マナウス 松田 承志

アルポラ・グランもとはと言えはバイネイラその
名を付けたパイロも古び
その昔コンドミニオのこの辺り山でありしかクア
レズマ目立つ
雨後の節のごと建つ貸し倉庫なかな貸し手付か
ぬ所も
犬も歩けばではないが歩いては句材歌材を探す毎
日
遅かりし由良之助とは大袈裟な何時ものベンチ先
に越されて
「評」氏の作品を読みながらいつも歩いてい
ると、いつしか、こちらが『由良之助』と云
いなり顔に手を当てて、あたりを見廻すので
ある。不思議と言えは、そう思う作品であ
る。
バウル 小坂 正光

誕生日迎へし老妻を伴いて最寄りの日本食堂へ行
く
老妻の誕生日祝いて子、孫より色とりどりの花届
け来る
白銀の綿島村も今は無く一望千里のカンナ園つづ
く
一期(とき)の日系ココロニアの農村は何処も白
銀の島(つき)
新島 新

とろろ汁喉越し易き夕餉どき
バクー釣りが句と腕自慢
渡り鳥空覆ふ如飛び去りし
マナウス
月に泣き月に癒やされ移民妻
鳥渡るアマゾン育ちの子鳥つれ
童歌ハミングしつつ雛飾る
心こめ祈りし紙雛内裏さま
マナウス
月の秋セルトナ・ジャの恋の唄
渡り鳥電線たわめて築譜めく
半世紀移住の誰も共に老い
胡椒摘む袋も野良着も砂糖袋
マナウス

三日月の落つこちさうな今宵かな
ぼつかりと一人ぼつかりの夜半の月
ふるさとも遠くになりて渡り鳥
あたふたと胡椒取り込む通り雨
マナウス 橋本美代子

月ふたつ河に浮く月昇る月
どこまでも月追いかけて夜航船
海峡の波間を低く鳥渡る
胡椒摘む今年の相場を占いつ
マナウス 丸岡すみ子

汚れなき月に快癒の願かける
思い出す実家に眠る顔の顔
子育てをしつつ夜学へ娘は向かう
ステーキに挽きたて胡椒香り立つ
マナウス 洪谷 稚

夕陽背に樹海に消え行く渡り鳥
夜学の子肩をすくめて帰路につき
白き手の指先真黒胡椒摘み
胡椒干す気になる空に黒い雲
マナウス 吉野 君子

アマゾンも故郷も同じ月冴える
古稀すぎた尚祖父よりの雛飾る
胡椒畑初期の移民の汗染みて
季を知りてアマゾン樹海を鳥渡る
パリスチス 戸口 久子

春来る日本列島花盛りサクラ満開、国は花園
「評」歌意鮮明にして己が境涯を打出した所
に氏の人間性を思う。こう言う人が人に愛さ
れる、と私は信じている。
サンパウロ 坂上美代菜

鉛筆を拾いだけにキックリ腰の脆さに愛想つか
すならねど
家について出来る投稿ありがたし腰をかばいてそら
ふた月を耐えし腰痛予約せし診察日には痛みも消
えて
シニシニ漬けを覚えて味見までさらに加不
足含めてくる
新聞の「湯のみ」治療を知り得たり美(は)しき
言の葉口すみ見る
「評」美しき言の葉、『あゝなかつた、すつ
きりなかつた』と繰り返す言の葉もみほ
ぐす、作品一連に自癒効果を含んでいる。良
き友はあがたい。
バウル 小坂 正光

「評」美しき言の葉、『あゝなかつた、すつ
きりなかつた』と繰り返す言の葉もみほ
ぐす、作品一連に自癒効果を含んでいる。良
き友はあがたい。
バウル 小坂 正光

トメアスの胡椒黄金期一九五四年秋
終戦月七十の月日よむ
◎投句送り先
HITOMI HOSHINO
Rua Prof. Luovira C. Peixoto No. 97
CEP 04139-070, Sao Paulo

読者文芸
◎投句送り先
◎投句送り先
◎投句送り先

◎投句送り先
◎投句送り先
◎投句送り先

◎投句送り先
◎投句送り先
◎投句送り先

◎投句送り先
◎投句送り先
◎投句送り先

◎投句送り先
◎投句送り先
◎投句送り先

◎投句送り先
◎投句送り先
◎投句送り先

◎投句送り先
◎投句送り先
◎投句送り先

投稿者におねがい
◎読みやすい書体で書
いてください。
◎投稿された原稿は返
却できません。
◎Eメールでの投稿
を歓迎します。送り先
はニッケイ新聞「読者
文芸欄」係。
Eメール hoshino@nikk.com

投稿者におねがい
◎読みやすい書体で書
いてください。
◎投稿された原稿は返
却できません。
◎Eメールでの投稿
を歓迎します。送り先
はニッケイ新聞「読者
文芸欄」係。
Eメール hoshino@nikk.com

投稿者におねがい
◎読みやすい書体で書
いてください。
◎投稿された原稿は返
却できません。
◎Eメールでの投稿
を歓迎します。送り先
はニッケイ新聞「読者
文芸欄」係。
Eメール hoshino@nikk.com

投稿者におねがい
◎読みやすい書体で書
いてください。
◎投稿された原稿は返
却できません。
◎Eメールでの投稿
を歓迎します。送り先
はニッケイ新聞「読者
文芸欄」係。
Eメール hoshino@nikk.com

投稿者におねがい
◎読みやすい書体で書
いてください。
◎投稿された原稿は返
却できません。
◎Eメールでの投稿
を歓迎します。送り先
はニッケイ新聞「読者
文芸欄」係。
Eメール hoshino@nikk.com

投稿者におねがい
◎読みやすい書体で書
いてください。
◎投稿された原稿は返
却できません。
◎Eメールでの投稿
を歓迎します。送り先
はニッケイ新聞「読者
文芸欄」係。
Eメール hoshino@nikk.com

投稿者におねがい
◎読みやすい書体で書
いてください。
◎投稿された原稿は返
却できません。
◎Eメールでの投稿
を歓迎します。送り先
はニッケイ新聞「読者
文芸欄」係。
Eメール hoshino@nikk.com

投稿者におねがい
◎読みやすい書体で書
いてください。
◎投稿された原稿は返
却できません。
◎Eメールでの投稿
を歓迎します。送り先
はニッケイ新聞「読者
文芸欄」係。
Eメール hoshino@nikk.com

援協定期評議員会

「14年も健全な運営」

政府との連携強化も進む

サンパウロ日伯援護協会(菊地義治会長)が先月25日に本部神内ホールで「第9回定期評議員会」を開き、22人が出席した。2014年度は奄美事業所の受け入れ数拡大、自閉症児童育学級「青年学級」PIPAの公共事業化など、政府との連携強化が目立った年となった。

PIPAでSUS利用可に

菊地会長は「20以上の事業が滞りなく進んでいるのは、健全な運営がなされているから、皆さんのご支援で、問題なく14年が経過した」と挨拶し、関係者に感謝を示した。昨年度の事業報告で「ホーム」は昨年2月に

「奄美事業所」(聖市ピラ・カロン区)は、14年7月に聖市役所との契約を更新、児童受け入れ数の上限が90人から120人に引き上げられた。

PIPAとSUS(統一医療保険制度)との契約が成立したこと、公共保健医療制度に登録されている自閉症患者の診察・治療を、同学級でも行うことが可能になった。連邦政府との連携により、薬を使わな



評議員会の様子

ブラジル・エッセイ



鮭のコロッケ

美味しい料理は国境を越える

ポルトガルの植民地だったブラジルには、ポルトガルの名残が幾つもありました。鮭のコロッケはその一つでもありません。魚料理を多く取り入れたポルトガル料理には、イワシを始め塩漬鮭をよく使用します。中でも塩

「小野リサ」ブラジル・サンパウロ生まれ。10歳までの幼少時代をブラジルで過ごし、15歳からギターを弾きながら歌い始める。1989年CDデビュー。ナチュラな歌声、リズムカルなギター、チャーミングな笑顔で瞬く間にポサノヴァを日本中に広める。アントニオ・カルロス・ジョビンや、ジャズ・サンバの巨匠、ジョアン・ドナードら著名なアーティストとの共演や、ニューヨーク・ブラジル・アジアなどの海外公演も行っている。1999年に発表したALBUM『DREAM/ドリーム』が、20万枚を超えるHitを記録。以降、日本におけるポサノヴァの第一人者として、その地位を不動のものとしている。



貴父が塩漬鮭を日本に取り入れようと思われ、ノルウェーに仕入れられた鮭が、塩漬鮭はノルウェー産が一番美味しいと、私の家族は話していました。ノルウェーに仕入れられた鮭は、私と父に同行し、現地の方々に同じコロッケを作った経験が、コロッケは私の中でも思い入れが深い一品です。(隔週火曜日に掲載予定)

Recipe for Bolinho de bacalhau. Includes ingredients like salted cod, potatoes, and eggs, and a step-by-step cooking method. A small photo shows the finished dish.

鮭はノルウェー産を使うのが美味しく作れます。

救急施設を建設するべく、今年3月28日に起工式が執り行われた。SUS病院の受付総数は5万4897件に上った。

有識者会議は、デジタル教科書の教育効果や課題を検討し、2016年中に報告書をまとめる方針。デジタル教科書について、政府の教育再生実行会議は「専門的な検討をする」との提言案をまとめている。

【共同】文部科学省は12日、タブレット端末などを使った「デジタル教科書」の導入を検討する有識者会議の第1回会合を開いた。会合では委員から「多くの情報を取り込める」といった利点を挙げる声が出た一方、教科書検定の方法など課題を指摘する意見も出た。

【共同】東京都は12日、クログロが大量死している葛西臨海水族園(東京都江戸川区)の水槽に、ハガツオとスマを追加して展示すると発表。異常がなければ6月中旬にマグロを入れ都によると、15日にハガツオを、22日にスマを約30匹ずつ追加する。3、4月にアカシユモクザメやタカサゴを加えて水槽内の環境を確認した結果、問題はないと判断した。

【共同】札幌市北区的原公園で、西アジア原産の花ムスカリ(写真)が見ごろを迎えている。鮮やかな青紫色でブドウの実に似ている。約10万球が、同じく見ごろを迎えた色とりどりのチューリップとともに咲き誇っている。

【共同】札幌市北区的原公園で、西アジア原産の花ムスカリ(写真)が見ごろを迎えている。鮮やかな青紫色でブドウの実に似ている。約10万球が、同じく見ごろを迎えた色とりどりのチューリップとともに咲き誇っている。

【共同】文部科学省は12日、タブレット端末などを使った「デジタル教科書」の導入を検討する有識者会議の第1回会合を開いた。会合では委員から「多くの情報を取り込める」といった利点を挙げる声が出た一方、教科書検定の方法など課題を指摘する意見も出た。

【共同】東京都は12日、クログロが大量死している葛西臨海水族園(東京都江戸川区)の水槽に、ハガツオとスマを追加して展示すると発表。異常がなければ6月中旬にマグロを入れ都によると、15日にハガツオを、22日にスマを約30匹ずつ追加する。3、4月にアカシユモクザメやタカサゴを加えて水槽内の環境を確認した結果、問題はないと判断した。

私の胸の中で息絶えた黒田上等兵の血ぬられた小石が上衣のポケットにある……。私は無意識に、その小さい石魂を撫でていた。そのとき、不意に、洞窟に埋れた同僚たち、それから不十分な看護の下で死んでいった三百名にちがいない患者たちの思い出が一度に甦った。(このままでは、ブラジルへは帰れない……) 私は自分に言い聞かせ、自分の心を確かめようとした。日本兵として、自分も戦つたのだ……。幾百もの兵の魂が、望郷に胸を焦しながら、この島に漂い続けるだろう。

二人の姿が次第に小さくなり、やがて見えなくなった。私はポルトに乗り移ってからも、二十年という時の重みを測っていた。絶望的な時の長さだった。いつか夕陽が赤く海面を染めていた。振り返ると、アツキに姉妹の姿が見えた。エリカとアンナが何か叫んだようだったが聞きとれなかった。

私は明るい期待を自ら打ち砕いた。(これで、いいのだ……) もう一度、揺れる心を確かめようとしたが、今、その余裕はなかった。エリカの表情に失望の色が走るのを見た。(これで、いい……) 私は、もう一度、胸の奥で自分に云いかけたい。(これで、いい……) 私は、もう一度、胸の奥で自分に云いかけたい。

Advertisement for 'Panama no Yori' (Panama no Yori) by Honma Takafumi. Features a palm tree illustration and the text 'Panama no Yori' and '本間剛夫'.

Advertisement for 'Old Books for Sale' (古本売ります!). Lists various books and magazines for sale at low prices, including 'Seraim', 'Kourier', and 'Monthly Magazine'.

Advertisement for 'A Grain of Rice' (一粒の米) by Shintaro Kawai. A book about the history of rice in Japan, priced at R\$50.

Advertisement for 'Mutual Earth Alliance' (共生の大地アリアンサ) by Takashi Kimura. A book about the history of the Aliança da Terra da Coooperativa, available in Japanese and Portuguese versions for R\$80.

